



祝 静岡プラント中間処理施設更新完成式典

起動スイッチを押す森常務執行役員支店長
(中央)、加藤所長(右)、中山社長

静岡アス混合所 中間処理施設が完成

大林道路中部支店が静岡アスファルト混合所(静岡市葵区芝原)で整備を進めていた中間処理施設が完成し、22日に現地で安全祈願祭が行われた。森俊二常務執行役員支店長はじめ関係者らが参加し、安全稼働を祈った。

神事では森支店長らが玉串を奉奠(ほうてん)。続いて行われた起動式では森支店長と加藤純一静岡アスファルト混合所長、中山鉄工所の中山

大林道路中部支店

弘志社長がスイッチを押し、施設を稼働させた。

森支店長はあいさつで、「新施設は騒音や振動、粉じんの防止に配慮した。環境保全は社会的責務だ。増加が予想される建設廃棄物の再利用に対応する施設として地域に貢献していく」と話した。

旧処理施設の老朽化に対応するため、2017年7月から整備を進めていた。アスファルト廃材とコンクリート廃

完成した中間処理施設



破砕能力は1時間当たり100t。旧施設から約3倍に強化した。廃材や破砕後の材料を保管するスペースも新たに備えている。設計は大喜設計、施工は平井工業、縁エキスパート、中山鉄工所、ケイブランドスケープ、児玉電機工業、鈴木設備工業所、エコワークが行った。

静岡アスファルト混合所には生産能力1時間当たり96tのアスファルトプラント、同60tのリサイクルユニットなどがあり、静岡県中部エリアに出荷している。